

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総括研究報告書

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における
情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究

研究代表者 岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部

研究要旨 本研究ではオンライン診療が地域における医療提供のあり方の一つとして適切に普及していくため、臨床家・自治体等が参考にできるような好事例・導入事例を収集し、適切なオンライン診療を実践できるような手引書を策定する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及
び所属研究機関における職名

富田博秋・東北大学大学院医学研究科教授
熊崎博一・長崎大学医歯薬学総合研究科教授
木下翔太郎・慶應義塾大学医学部特任助教

A. 研究目的

我が国では、高齢化、離島・僻地医療、復興支援など、多くの医療上の課題があり、地域で暮らす全ての人が、必要な時に適切な医療を受けられるための手段としてオンライン診療の活用が期待されている。

今後求められるのは、オンライン診療が地域における医療提供のあり方の一つとして適切に普及し、地域の医療体制への貢献を果たしていくことである。R6年度の診療報酬改定を経て活用の拡大が予想されるが、多くの精神科医師はオンライン診療の経験がなく、ノウハウが共有されていない。患者によっては自治体の支援が必要になるケースもあるが、自治体間の事例共有も不十分

である。令和5年3月発出された「情報通信機器を用いた精神療法に係る指針」に沿った、質の高い診療が実践されるよう適切にガイドしていくことが必要である。本研究ではそのようなニーズに応えるべく、臨床家が好事例を参考にしつつ、適切なオンライン診療を実践できるような手引書を策定する。

B. 研究方法

1. 地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集

本課題では、地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集を行い、オンライン診療の導入場面から安定したフォローアップに至るまでの経過をまとめる。

2. 離島・僻地医療、災害支援の観点を含めた地域ニーズ・支援実態の把握

僻地医療（東北大）、離島・僻地医療（長崎大）の観点から、自治体でのニーズ、リソース等につき、実際の導入事例を含めて情報収集を行う。

C. 研究結果

1. 地域医療の中でオンライン診療を有効

に活用した好事例の収集

全国の医療機関、関係する学会等団体を通してヒアリングを実施し、2024 年度中に 27 例の同意取得済みの好事例について収集した。ヒアリングでは、好事例におけるオンライン診療導入までの経緯、対面ではなくオンライン診療を選択した背景、導入によって得られた効果など、症例ごとに 27 の項目について情報収集を行った。収集の際には患者から書面で同意を取得した。

2. 離島・僻地医療、災害支援の観点を含めた地域ニーズ・支援実態の把握

僻地、離島のケースで、自治体等と連携し実際にオンライン診療を導入する事例の支援や情報収集を行なった。その中で得られた好事例についてはヒアリングも追加して実施した。また、今後実施する手引書作成に向けて、導入時に現場担当者が感じる困難感や導入の障壁などについても担当者からヒアリングし情報収集を行った。

D. 考察

本研究で得られた好事例・導入支援事例は、多くの臨床家・自治体の参考になるものであると考えられた。今後、これらの好事例をまとめたものをケースシリーズとして論文化することを予定しており、倫理申請も行なった。

E. 結論

収集した好事例をケースシリーズとして報告するとともに、臨床家が参考にできるオンライン診療実践の手引書作成を通して、より適切なオンライン診療の普及に寄与するよう努める。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表：該当なし

2. 学会発表：該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得：該当なし

2. 実用新案登録：該当なし

3. その他：該当なし

